

6月6日発表のメキシコの政策金利の引き下げについて

政策金利を3.5%から3.0%に引き下げ

2014年6月6日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レート¹を0.5%引き下げ、年率3.0%とすることを決定しました。市場の大半は据え置きを予想していました。利下げは2013年10月以来で、過去最低の金利水準を更新しました。

利下げの背景には、国内経済成長の鈍化が継続する一方で、インフレ動向は改善を示していることが挙げられます。

国内経済成長鈍化に対応

先月23日に発表された1～3月期GDP（国内総生産）成長率は、2013年10～12月期に引き続き、市場予想を下回る成長に留まりました。また、同月21日に同中銀が発表した四半期報告では、2014年のGDP成長率見通しが、従来の3.0～4.0%から2.3～3.3%に引き下げられましたが、今回の金融政策決定会合後の声明では、新たな見通しをも下回る可能性が示唆されました。

一方、4月の消費者物価指数は前年同月比+3.50%と引き続き同中銀のインフレ目標レンジに収まるとともに、今回の声明では、「2015年1月以降3%近くへ低下する確率が大幅に高まった」としています。

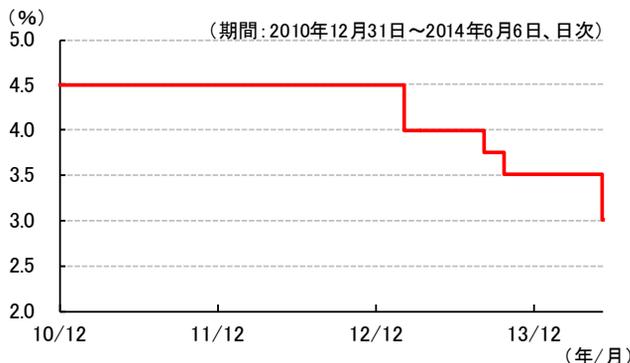
なお、声明では、「一段の利下げは推奨できない」とも述べており、さらなる利下げには否定的であることが示唆されました。

6月6日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、対円で前日比0.4%程度、対米ドルで同0.5%程度のメキシコペソ安となりました。

次回の金融政策決定会合は2014年7月11日の予定です。

以上

【図1】メキシコの政策金利の推移



【図2】メキシコの消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】メキシコペソの対円・対米ドルレートの推移



※ニューヨーク時間17時頃の値。ただし、6月9日の為替レートは日本時間9時頃の値。

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。